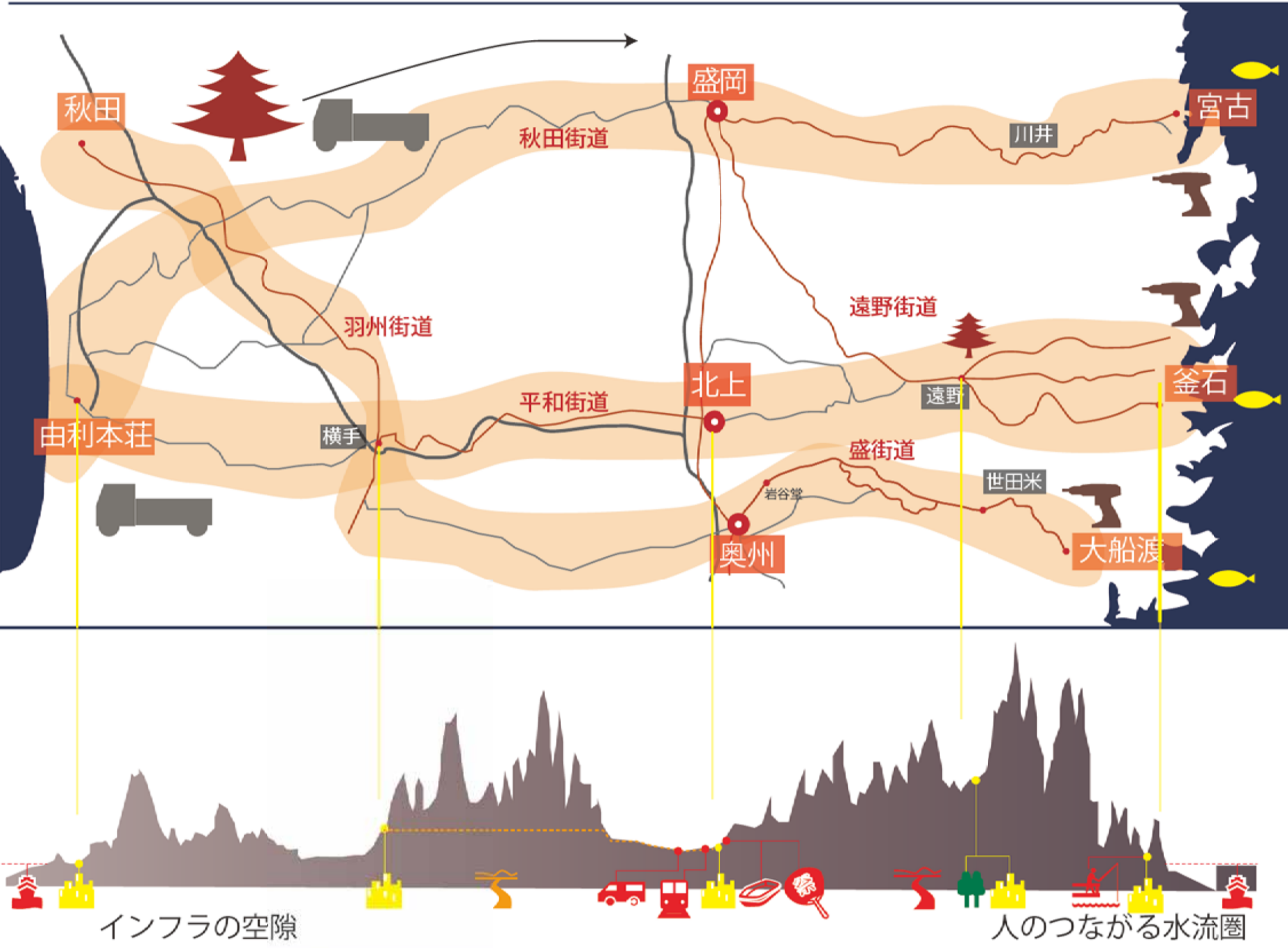


復元力を組み込んだ広域ネットワークの再設計

Redesign of Resilient Regional Network

場所の力から明らかになる広域地域圏

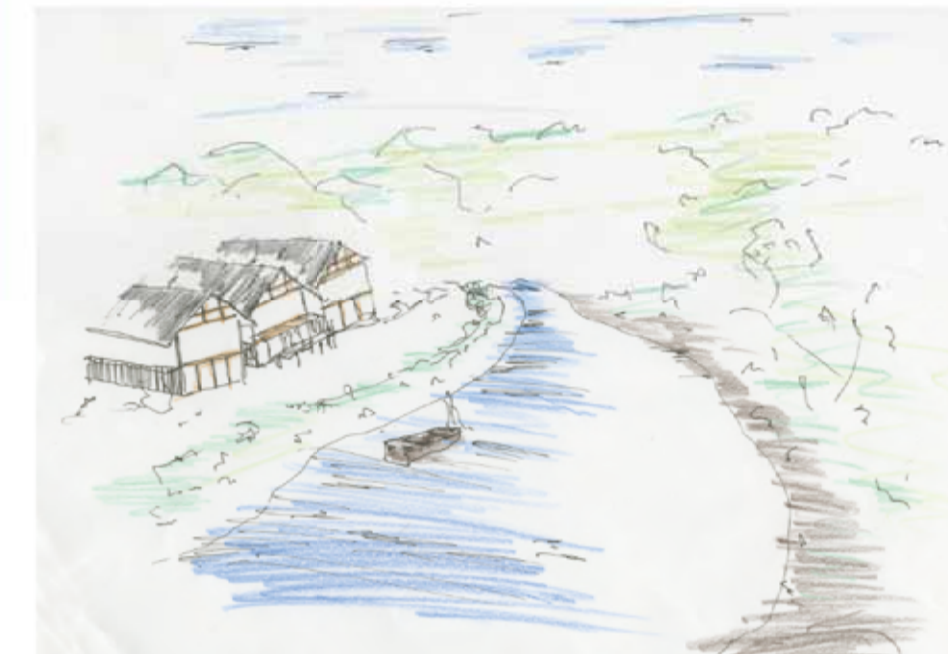
東北横断ネットワーク圏



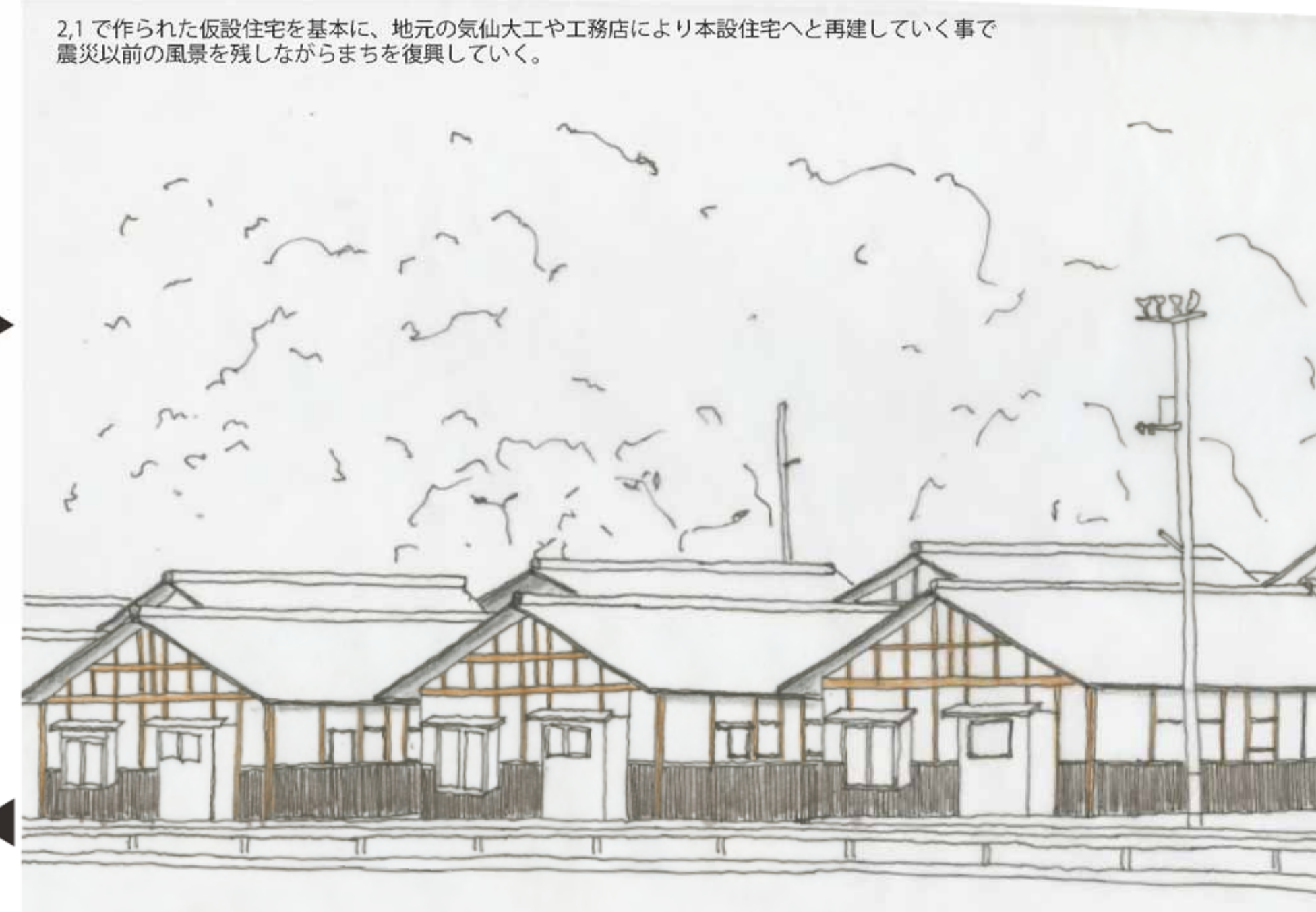
社と海をつなぐネットワーク圏



早稲田大学 M1 調査参考



多彩にめぐるされたつながりの中で、内陸部に多くの資源が集まり、沿岸部にも還元されていく。



	A. 災害発生直後	B. 復旧 (~1年後)	C. 復興前期 (~3年後)	D. 復興後期 (~5年後)	E. 自立 (5年後~)
東北横断ネットワーク圏	日本海側への物資供給。 ↓ 被災地（太平洋側沿岸部）へ。	日本海側、内陸、太平洋側 3拠点体制から5拠点体制へ。	秋田からの木材供給。 + 地元職人による住宅供給。 太平洋側沿岸部の漁業復興。	県を超えての連携強化。 共同イベント等の開催。 観光ルート開発。 洋上風力発電ファームの設置。	東北一体の自立型まちづくり。 ↓ 東北横断ネットワーク圏
社と海をつなぐネットワーク圏	沿岸から内陸へ避難。 ↓ 内陸から沿岸（ヨコのつながり）による物資供給。	遠野、住田、千厩、摺沢、川井に拠点設置。 内陸の各都市（盛岡、北上、一関）などからの物資供給。	沿岸・内陸をつなぐ拠点どうしのタテのつながり強化。 地元材・地元職人を中心にした住宅供給。 太平洋側沿岸部の漁業復興。	観光地、観光ルート開発。 (遠野、平泉など)。 漁業本格化→活気生まれる。	社と海をつなぐネットワーク圏一体でのまちづくり。
まち	支援	支援	支援	復興からよりよい地域づくりへの東北全体の連携	多様性のある自律的広域圏東北へ
連携広域圏		連携体制の形成	連携体制による人材・資源の広域地産地消		
東北					
日本					
世界					

畠 和宏 (筑波大学大学院)、安東 政晃 (東京大学大学院)、奥田 朋仁 (東京大学大学院)、川副 育大 (早稲田大学院)、米舛 伊代 (広島大学大学院)、関島 毅 (東京理科大学大学院)、遠藤 友里恵 (東京大学大学院)、紺谷 陽平 (東京理科大学)

Kazuhiro HATA(Miyagi University), Masaaki ANDO(Tokyo university), Tomohito OKUDA(Tokyo university), Yasuhiro KAWASOE(Waseda University), Iyo YONEMASU(Hiroshima University), Tsuyoshi SEKIJIMA(Tokyo University of Science), Yurie ENDO(Tokyo university), Yohei KONTANI(Tokyo University of Science)

The view of the area 4